

## 学校給食週間終了

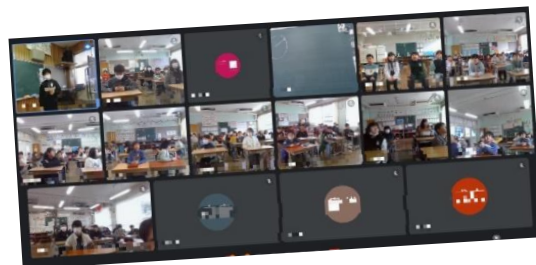
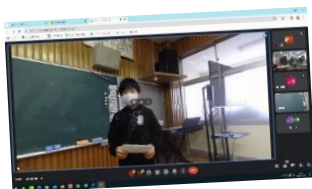
1月23日(火)から29日(月)までの南陽小学校給食週間が終わりました。普段は当たり前食べている給食についてフォーカスすることで、食育を進めるよい機会になりました。

給食が出来上がるまでには、食材を生産する人から、加工する人、配送する人、献立を決める人、調理をする人など多くの携わる人がいてはじめて、私たちは給食を食べることができる。感謝の気持ちを持ち、それを表し伝えるために、プレゼントを作って送りました。また、「いただきます。」の言葉に表れているように、命をいただいていることをあらためて認識し、自身の食への向き合い方などを考えてみる。具体的には、食べ物を大切にしているか、マナーを守って美しく食事しているかなどを学級活動で学習しました。

さらに、受け継がれてきた郷土食に触れ、食文化に関心をもったり、引き継いでいこうとする思いを持ちたりする場も設定しました。

「食」は生きるための必要条件ですが、併せて自分が社会や自然とつながっていること、それらを尊重する心を育てるものだと考えます。生活経験や知識がまだまだ足りない子どもたちです。私たち大人が適切なタイミングで言葉かけを行っていく必要があると思います。

画像は、リモートで実施した給食集会の様子です。



先日 tetoru でお知らせしましたが、他の画像はこちら ⇒ <http://tinyurl.com/bdec4av4>

話は少し変わりますが、先月の長崎新聞に「問題切実…人手不足で給食休止 離島の子育て脅かす」というリードで、対馬市上対馬共同調理場が人手不足で9日間給食を休止せざるをえなかったという記事が掲載されました。

県内の学校で起こったことで、また対馬市の学校に在任中にその上対馬共同調理場の給食を食べていたこともあり、とても残念かつ、とうとう人手不足が学校の教育活動に影響を及ぼし始めたかと危機感を持ちました。

以前の学校だよりで、本校の給食室も調理員さんが足りなくなっていることをお伝えしました。保護者の方で一人勤務していただくようになったのですが、それでも人手は足りていません。契約した時間を延長したり、他校からヘルプに来てもらったりしてしのいでいる状況です。そのような中でも、毎日本当においしい給食を提供してくださる給食室には、栄養教諭をとおして「人が足りないことで慌ただしさが増し、食の安全、調理員さんの安全を守れないことだけは避けたい。多少提供が遅くなったとしても仕方ない。」と伝えていきます。現状を共有したいと思い記載しました。